

伏見区基本計画の取組状況について

「伏見区の将来像」の現況と次期伏見区基本計画への視点

伏見区では、平成13年1月に伏見区基本計画を策定し、「『水と緑と温もりでひらく都市—伏見』～「らしさ」のただよう保全・再生・創造のまち～」を将来像としてその実現に向けた取組を推進してきました。これまで、計画に掲げた全223項目のうち、ほぼ100%に着手することができましたが、引き続き推進していく項目も7割以上あり、「将来像」の達成は未だ道半ばと言えます。具体的には、取組成果として、市民主導によるまちづくりが大いに進展したことや、新しい伏見区の都市(まち)の発展につながる各種取組が推進されたこと、課題としては、暮らしを支えるインフラ整備などが挙げられます。

今後は、少子高齢化が更に進行し、社会が成熟化する中、心豊かに安心して生活できる地域づくりを基本視点に、この10年間に進んだ市民主導のまちづくりを一層推し進めるとともに、伏見の魅力や個性に磨きをかけ、さらに「きらり」と輝くまちを目指していきます。

■市民主導によるまちづくりの活発化

伏見区内では、この9年弱の間に、区民の自主的な活動が活発化し、まちづくりや環境、福祉など様々な分野で、行政主導ではない市民主導、地域主導、協働の取組が広がっています。伏見区の将来像「水と緑と温もりでひらく都市—伏見 ～「らしさ」のただよう保全・再生・創造のまち～」は、区民のそのような活動の一つ一つが積み重なり、連携する中で、前進したと考えられます。

＜具体的な取組成果＞

醍醐コミュニティバスの運行、ふかくさ自然環境再生ネットワーク事業(大岩山一斉清掃、深草トレイルの整備)、伏見夢工房による地域活性化事業、伏見ルネッサンスプランの推進、まちづくり協議会等の発足(淀、向島駅前、久我・久我の杜・羽束師など) など



大岩山の一斉清掃



大手筋地域子育てステーション
「ばおばおの家」



醍醐コミュニティバス

＜伏見区まちづくり懇話会での意見＞

- ・大岩山は、再び不法投棄されないよう、定期的な清掃活動や投棄されない環境づくりが必要。
- ・まちづくりの取組には資金が必要。醍醐コミュニティバスは、行政の財政支援なしで運営しているが、敬老乗車証の利用の増加に見合った補助金の増額は不可欠。また、伏見夢工房はTMOとしての行政の手厚い支援がなくなり経営が厳しい。
- ・伏見は酒造業や大きな商店街、農業など資源が豊富。これらが連携した地域密着の取組を考えるべき。
- ・伏見区は、外国籍市民が最も多く、伏見青少年活動センターは国際交流事業を盛んに行っているが、運営がボランティア頼みになっている。
- ・伏見区では様々な市民団体が活動している。

■新しい伏見区の都市(まち)の発展

「将来像」の「ひらく」という表現に込められた「新しい伏見区の都市(まち)が発展していく」というイメージは、市の南部創造のまちづくりと連動した油小路通沿道の「らくなん進都」における創造型産業のまちづくりや京都高速道路の整備、中心市街地活性化法に基づく伏見旧市街地の活性化の取組、更には、京都南部の周辺市町との広域観光連携の取組などにより具体的な形になりつつあります。



京都高速道路油小路線

＜具体的な取組成果＞

伏見区総合庁舎の整備、高度集積地区(らくなん進都)の整備推進
京都市(伏見地区)中心市街地活性化基本計画の推進
京都伏見観光連携協議会の発足と京都南部広域観光ネットワークの構築 など

＜伏見区まちづくり懇話会での意見＞

- ・城下町、港町、宿場町、酒蔵の町などの観光資源を、5つの観光団体が集まって立ち上げた伏見観光連携協議会を通じて全国に情報発信したい。
- ・「ひらく」ということに重きを置いた10年だった。例えば、中心市街地の活性化の取組では、観光客の入り込み数が増えた。ただ、ソフト中心で駐車場などインフラ整備ができていない。
- ・伏見区総合庁舎が地域の活動拠点としてどのように活用されるか注目していきたい。

■豊かな暮らしを支える生活基盤の整備推進

一方、区民生活に目を転じると、狭隘な生活道路への通過車両の流入や周辺地域での公共交通網の脆弱さ、公営・公団住宅の老朽化など生活レベルの都市基盤が必ずしも整っていないことから、高齢化の進行とも相俟って、今後の大きな課題となることが予想されます。これまで、竹田街道や本町通での歩車共存道路の整備や駅のバリアフリー化など徐々に人にやさしいまちへの転換が図られてきましたが、今後とも、生活者の視点に根ざした取組の推進が必要です。また、高齢者世帯や核家族世帯が増加する中、ハード整備のみならず、地域のつながりがますます大切になってきています。



現在の竹田街道



京阪伏見稲荷駅のバリアフリー化

＜具体的な取組成果＞

伏見桃山城運動公園の整備、鉄道駅のバリアフリー改修
京阪本線淀駅の高架化・駅前広場の整備推進、竹田街道・本町通の歩車共存道路の整備着手
醍醐団地総合再生事業の完了、伏見西部土地区画整理事業の推進 など

＜伏見区まちづくり懇話会での意見＞

- ・鉄道駅の駐輪場が未整備で狭い道路を塞いでしまっているところがある。
- ・国道24号など歩道が狭く、危険な箇所がある。
- ・深草は高齢化に伴い交通改善が課題となっているが、商店街の活性化と融合した対策を考えるべき。
- ・伏見区として地域福祉をどう推進していくかを考えていかなければならない。
- ・地域に開かれた大学として介護サポートなどの役割を果たせないか検討している。
- ・独居老人が増加しており、孤独死を防ぐため、住民同士のつながりを構築する仕掛けづくりが必要。